

ほほえみ

01812

暑い日が続きます。いかがお過ごしですか。
こどもが病院にお世話になっていると治療のこと
生活のことなど医師や看護婦さんに感謝の気持ち
でいっぱいです。ありがたい限りです。
有難い。漢字では難が有ると書いて有難い。
なぜ難が有ってありがたいのでしょうか。
人は困難を与えられ、それを乗り切ることで力が
ついていく、とも言われます。
また「順境は人を殺し、逆境は人を生かす」とも
言います。
こどもの病気も、家族の悩みも、生活の苦しさも、
はたまた今年の異常な暑さも「有難い」ことかも
しれません。

<第74回 ほほえみの会>

初参加の人も含め7人が集まりました。

- ▽ 2歳の男の子。肺の裏側に珍しい悪性腫瘍 近くの病院や総合病院でも病気がわからず子ども病院でようやくわかる。
いつから病気だったのか。もっと早く気づいてやれなかったのか。
自分を責める。治療をはじめ白血球が減ってきた。感染も心配。
病気になった原因は分からないし全く自分を責めることではない。
また治療で白血球が減ってきたのは薬が効いている証拠だと良い
方向に物事を考えた方がいい。という話ができました。
家には祖父、祖母がいて4歳の兄の面倒を見てくれて助かっている。
が、家が遠いので通うにも時間がかかり大変。兄も可哀想。
父親もたとえ2、30分でも面会のために遠く車を走らせている。

- ▽ 小学3年の女の子。こども病院でも初という腸の珍しい腫瘍。治療を終えて今では学校にも通う。不安は多いが前例のデータがない分治る可能性も高いと信じている。
本人への告知をどうしたらいいか悩む。ガンという言葉が他から本人に入ると困る。
ガンという言葉は大人と子供ではイメージが違うのではないか。治療をすれば治るという自覚が本人に持てるように、本人が理解できる範囲で話をしたらいいのではないか。こども病院で先月発行した「白血病と診断された君へ」の冊子も参考に。今順調ならば必要以上に怖い話をする必要はないのでは。
- ▽ 小学6年男の子。退院して10日で心配していた再発。
化学療法か安楽か選択を強いられる。ターミナルケアに入ったものの本人の意識はしっかりしており、調子も良さそうなのでもう一度化学療法をさせたい。
退院した間にディズニーランドにも行けた。本人は次はディズニーシーに行きたいと頑張っている。
一方で祖母の精神的ショックが大きい。そちらも心配。
- ▽ 総会で話ができましたが藤田恵子さんを中心に「患者本人の会」が発足することになりました。病気と闘っている子どもたちの気持ちは病気を体験した人たちこそ分かり合える。共感し会えるのではないか。このことで子どもたちの話し相手になりたい。また、自分たちの悩みも語り合いたい。
8月19日に初めての会合を開きます。

次回は9月 9日（日）11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail klikeda@nifty.com

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~hohoemi/>